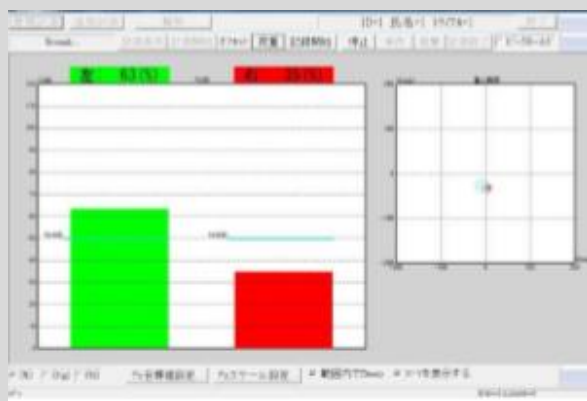


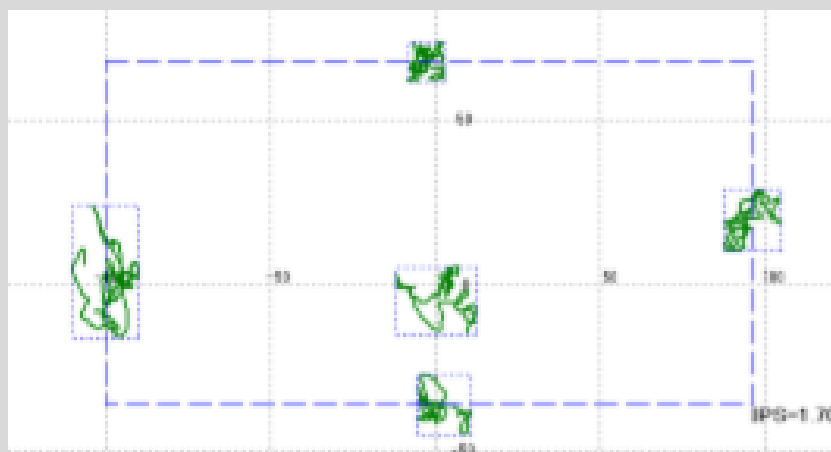


上記のように患者様の平衡機能を検査することで、どのようにバランスをとっているかを理解することができます。



また、この重心バランスシステムには、荷重量を測定する機能も付いております。骨折の術後などにおいて、医師より「○週後体重の1/3で荷重を開始してください」等、理学療法士に指示が出ます。今までは通常の体重計を使用していましたが、このシステムを使用することでより正確に荷重量が把握できるようになりました。リハビリテーション場面では、画面を見ながら一緒にトレーニングしていきます。

さらに当院理学療法部門ではIPSの測定も行っております。IPSとは姿勢安定度評価指標といい、安定域の面積の大きさと身体重心の揺らぎの程度を表したものです。理学療法では、これらの数字を元に屋内歩行や屋外歩行が患者様にとって転倒のリスクがないかを評価しながらリハビリテーションを提供しています。



#### 参考文献

理学療法－臨床・研究・教育 第15巻（通巻15号）2008 ISSN 1880-893X

理学療法学 第27巻 第6号 99～203頁 2000年